

子どもの尊敬と憧れを社会化する親の実践 —偏相関ネットワークによる探索的検討—

武藤世良 (お茶の水女子大学)

キーワード：尊敬，憧れ，社会化

問題と目的

尊敬や憧れの感情は、優れた他者の追随や自己向上を動機づけるため、子どもや青年の成長・発達にとって重要である (Li & Fischer, 2007; 武藤, 2018)。しかし、尊敬や憧れの発達やその促進要因を検討した研究は非常に不足している (武藤, 2018)。親は子どもの感情の社会化において重要な役割を担うとされてきた (Eisenberg, Cumberland, & Spinrad, 1998)。本研究では、Eisenberg et al.

(1998) と Fredrickson (1998) の親の感情の社会化のモデルを踏まえ、社会化の実践がいかなる構造をなし、尊敬と憧れの発達といかに関わりうるのかをネットワーク分析により探索的に検討することを目的とする。

方 法

本研究は、武藤 (2020) と同時に実施された。

回答者と調査手続き

2017 年 6～7 月に楽天リサーチ株式会社 (現・楽天インサイト) のインターネットリサーチを利用した。小学生から高校生までの子どもを 1 人以上持つ、夫婦ペアでない母親または父親を対象に、小学 1 年生から高校 3 年生の親ができるだけ均等に含まれるように調査会社に回収を依頼した。複数の子どもがいる親は末子 (学齢は小学生から高校生に限定) について回答するよう指示した。有効回答者は 500 名 (男性 250 名, 女性 250 名; 平均年齢 46.0 歳, $SD = 5.70$, レンジ: 29～64 歳) であった。回答者は尊敬条件 (「誰かを尊敬する気持ち」) か憧れ条件 (「誰かに憧れる気持ち」) のどちらかにランダムに割り振られ、各条件で 250 名が回答した。

調査内容

回答者は尊敬か憧れの感情のどちらか一方のみについて、(a-1) 親の感情知覚, (a-2) 子どもの感情に対する親の反応, (b) 感情についての親子の話し合い, (c) 親自身の感情表出, (d) 子どもが過ごす状況・場面の親の選択, (e) 親の理想の伝達, (f) 親の感情の被教育経験に関して回答した。(a)～(f) では量的側面 (頻度) と質的側面 (具体的内容の自由記述) の双方を尋ねたが、本研究では量的側面のみ検討した。(a)～(e) では「1. 全くない」～「5. とてもよくある」, (f) では「1. 全くなかった」～「5. とてもよくあった」の 5 件法を用いた。

結果と考察

Epskamp & Fried (2018) の偏相関ネットワーク (partial correlation networks) により分析した結果 (ポリコリク相関, lasso 法) を Figure 1 に示す。尊敬条件と憧れ条件でネットワーク構造がほぼ共通しており、親の反応 (Q6) や親子の話し合い (Q8), 親自身の感情表出 (Q10) が親の感情知覚 (Q4) と直接的・間接的に関連していた。このことは、Eisenberg et al. (1998) と整合し、こうした親の社会化実践が他の感情と同様に、尊敬や憧れの発達と関連することを示唆した。一方で、尊敬条件と憧れ条件でネットワークの構造や強度が異なる部分もあった。例えば、状況・場面の親の選択 (Q12) は、尊敬条件では親の他の社会化実践 (Q8, Q10) を通じて感情知覚 (Q4) に間接的に関連する可能性が示されたが、憧れ条件では直接的にも関連していた。偏相関ネットワークは予測的な媒介関係や潜在的な因果関係の存在を示唆する上で有用である (Epskamp & Fried, 2018)。したがって、今後、本分析や自由記述の分析を基に、尊敬と憧れの社会化に特徴的な親の実践や、それらの媒介関係や因果関係の議論や検証を進めることが望まれる。

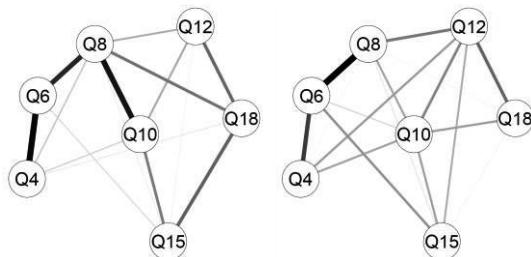


Figure 1 感情の社会化の偏相関ネットワーク
注) 左が尊敬条件, 右が憧れ条件。Q4: 親の感情知覚, Q6: 子どもの感情に対する親の反応, Q8: 感情についての親子の話し合い, Q10: 親自身の感情表出, Q12: 子どもが過ごす状況・場面の親の選択, Q15: 親の理想の伝達, Q18: 親の感情の被教育経験。EBIC ハイパーパラメータ $\gamma = 0.5$ の結果を採用した。線の太さと濃さは他の変数を全て統制した偏相関の強さを示す。偏相関は全て正の値をとった。

付 記

本研究は公益財団法人前川財団の平成 28 年度家庭・地域社会教育助成を受けた。